

血液製剤について

▶ 輸血用血液製剤と血漿分画製剤

全血製剤

全血製剤とは、採血された血液が固まらないように、また保存がきくように、抗凝固剤の入った保存液を加えたものです。全血製剤は、赤血球と血漿とを同時に必要とする状態の患者さんに使われます。

血液成分製剤

血液成分製剤には大きく分けて、赤血球製剤、血小板製剤と血漿製剤があります。赤血球製剤は主として貧血などに、血小板製剤は血小板減少による出血や出血傾向のある患者さんに使用されます。血漿製剤は主として凝固因子の補充のために使用されます。

血液センターでは、輸血に使う各種の血液製剤を病院で使用できるように製造し、厳重な品質管理のもとに、冷蔵庫や冷凍庫など、それぞれの血液製剤に適した条件で保存しています。
また、いつでも救急病院などの要請に応じられるようになり、血液製剤の供給は24時間体制で行っています(大きな病院では緊急輸血に備えて、一定量の血液製剤を常時備蓄している)。

輸血用血液製剤

輸血用血液製剤には、全血製剤と血液成分製剤があります。

赤血球、白血球と血小板など血液の細胞成分は、血漿中に浮遊して、全身を流れています。血漿は、水分の中に塩類、たんぱく質、脂肪などが溶け込んでいる液体です。

血漿中のたんぱく質(血漿の約90%)が水で残りの約10%が固体成分ですが、そのうちの約70%がたんぱく質(アльブミン)、約20%が免疫グロブリン、凝固因子など、多くの種類があります。

凝固因子は2種類ありますが、そのうち第Ⅷ因子、第Ⅸ因子は血友病の患者さんには欠かすことのできないものです。

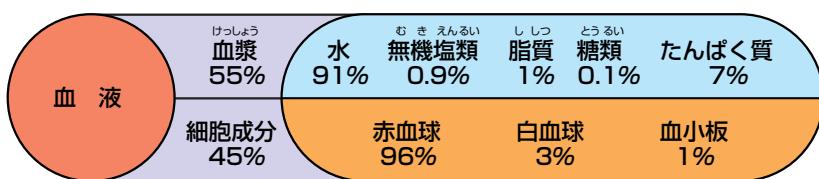
アルブミンは肝臓でつくりられ、血管内に水分や塩類を保持して、血液が流れるために必要な機能(浸透圧)を維持する重要な働きをします。また、ビタミンやホルモンなどを運ぶ働きもします。

免疫グロブリンは白血球の一種であるB細胞でつくりられ、細菌やウイルスなどの感染症から体を守るところの働きをしています。

このように血漿の中のたんぱく質には、人間が生きていく上で欠かせない重要な働きがあります。この血漿の中にある、特定のたんぱく質を物理化学的に分離して取り出すことを分画といい、このようにしてつくれられた医薬品を血漿分画製剤と呼びます。

血漿分画製剤とは

血液の組成



血友病について

ちょっとした傷から出血しても、血液が固まりにくく、出血がなかなか止まらない病気で、血液を固まらせる凝固因子が先天的に欠乏しているために起こります。伴性劣性遺伝をし、通常、男性にだけ発症します。

